

## 令和4年度事業報告書

令和4年度は、令和3年度に「スポーツ競技団体ガバナンスコード」の公表、適合性審査も済み、長年に亘り健全で且つ強固な組織団体としての運営を目指し、中・長期計画も策定、選手強化、競技人口の拡大、国際レベルの競技運営能力、国際発信力の向上に向けて事業を進めた。そして、ガバナンスの向上にも努め社会的責任を自覚し、公益社団法人としての使命を継続的に行った。

競技力の強化については、令和2年1月より流行った“新型コロナウイルス感染症”の影響で、令和4年度の前半までは海外派遣の中止や事業縮小で選手のモチベーションの維持が難しかったが、後半は更に感染対策も実施し事業を実施した。

そして、来年の2024パリオリンピックを迎えるにあたり「最大参加枠男女とも3名の獲得」及び「男、女でメダル獲得並びに全員入賞」の目標に向け、ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）の事業連携と味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）及び国立スポーツ科学センター（JISS）等を活用し、事業を行った。目標達成のために選手及びスタッフ等が万全の態勢で臨めるよう調整を行い、パリオリンピックでのメダル獲得に向けての目標値設定や合宿・トレーニング計画等の強化戦略プランを継続した。

そして、恒久的にオリンピックで活躍できる選手を育成するため、ナショナルトレーニングシステム（競技者育成プログラム）をさらに進め、2028ロサンゼルスオリンピック、2032ブリスベンオリンピック対策として若手選手育成事業も実施した。併せて中学生の素材のあるタレント発掘・育成も継続して行いユース層の強化も行った。

また、今まで日本で国際大会を開催した経験や昨年7月に開催された2020東京オリンピックの運営力を生かし、2026年アジア競技大会が愛知県名古屋市で開催されることから、地元名古屋市実行委員会及びアジア連盟の協力を得て、国際大会の運営をさらに強固なものにしていく。

### 【公益事業】

#### I. 競技力向上事業

##### 1. 選手強化事業

###### (1) 国内合宿

公益財団法人日本オリンピック委員会の補助事業として、強化拠点である「味の素ナショナルトレーニングセンター専用練習場」を中心に、国際競技力の向上を目的に実施した。

また、2024年パリ、2028年ロサンゼルス、2032年ブリスベンオリンピック対策として、ナショナル及び次世代選手育成等の強化を実施した。

#### 【ナショナル合宿】

No	合宿名	期 間	指導者数	選手数	場 所
1	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	4/ 5～ 4/12	4名	4名	東京都 NTC
2	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	4/ 7～ 4/16	6名	4名	東京都 NTC
3	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	5/ 9～ 5/26	2名	4名	沖縄県 国頭村
4	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	5/11～ 5/25	5名	8名	東京都 NTC
5	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	6/ 9～ 6/23	5名	7名	東京都 NTC
6	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	6/13～ 6/26	3名	6名	東京都 NTC
7	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	7/ 1～ 7/14	3名	5名	新潟県 津南町
8	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	7/15～ 7/29	4名	4名	北海道 士別市
9	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	8/10～ 8/22	4名	8名	北海道 士別市
10	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	8/31～ 9/10	4名	6名	静岡県 清水NTC
11	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	10/21～10/29	4名	6名	東京都 NTC
12	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	11/14～12/10	7名	10名	東京都 NTC
13	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	11/18～12/10	4名	8名	東京都 NTC
14	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	1/ 8～ 1/19	3名	8名	沖縄県 国頭村
15	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	1/ 9～ 1/21	2名	3名	高知県 高知市
16	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	2/ 6～ 2/18	4名	9名	東京都 NTC
17	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	2/13～ 2/22	3名	7名	埼玉県 川越市
18	国内合宿 (ナショナル合宿 男子)	3/ 6～ 3/18	3名	9名	東京都 NTC
19	国内合宿 (ナショナル合宿 女子)	3/16～ 3/25	4名	6名	東京都 NTC

## 【次世代育成合宿】

No	合宿名	期間	指導者数	選手数	場所
1	国内合宿（世界ジュニア代表合宿女）	6/ 1～ 6/ 5	4名	5名	新潟県 津南町
2	国内合宿（世界ユース代表合宿）	7/ 8～ 7/10	6名	10名	岡山県 倉敷市
3	国内合宿（世界ジュニア代表合宿男）	7/25～ 7/29	1名	3名	北海道 士別市
4	国内合宿（アジア選手権事前合宿）	10/ 6～10/ 9	3名	1名	東京都 NTC
5	国内合宿（中学生合宿）	11/12～11/13	10名	9名	東京都 NTC
6	国内合宿（世界ジュニア候補合宿）	1/ 5～ 1/11	3名	7名	東京都 NTC
7	国内合宿（次世代育成合宿 女子）	2/ 6～ 2/11	3名	8名	山梨県 山梨市
8	国内合宿（次世代育成合宿 男子）	2/12～ 2/19	2名	9名	静岡県 下田市
9	国内合宿（世界ユース事前合宿）	3/19～ 3/21	5名	3名	東京都 NTC

### (2) 海外合宿

標記ついて、国際力（国際人の養成）及び国際競技力の向上を目標し、2月に「大学生海外研修合宿（米国）」をアメリカ合衆国ルイジアナ州立大学シュリーブポート校で計画、また、2024年オリンピックに向けて「女子ナショナル海外合宿（フランス・パリ）」を2月に計画したが、2事業ともコロナ禍で実施できなかった。

### (3) 国際競技会への派遣

恒久的オリンピック選手育成の観点（一定レベルの競技力を有する）から年代別の競技会に優秀選手の派遣を計画したが、多くがコロナ禍で派遣できなかった。

- ①世界ジュニア選手権大会「次世代アスリート育成事業」⇒ コロナ禍により派遣中止  
開催期間：令和4年5月 2日～5月10日  
場所：ギリシャ共和国 クレタ島
- ②世界ユース選手権大会「次世代アスリート育成事業」⇒ コロナ禍により派遣中止  
開催期間：令和4年6月11日～6月18日  
場所：メキシコ合衆国 レオン市
- ③アジアジュニアユース選手権大会「次世代アスリート育成事業」⇒コロナ禍により派遣中止  
開催期間：令和4年7月15日～7月25日  
場所：ウズベキスタン共和国 タシケント市
- ④日・韓・中ジュニア交流競技会「日本スポーツ協会主催」⇒ コロナ禍により開催中止  
開催期間：令和4年8月25日～8月26日  
場所：中華人民共和国 武漢市
- ⑤第19回アジア競技大会「JOC派遣事業」⇒ コロナ禍により開催中止  
開催期間：令和4年9月14日～9月21日  
場所：中華人民共和国 杭州市
- ⑥世界選手権大会「NF強化事業」  
開催期間：令和4年11月16日（水）～11月25日（金）  
場所：コロンビア共和国 ボゴタ市  
派遣人数：指導者10名、男子選手9名 女子選手10名、計29名  
入賞者：男子73kg級 宮本昌典5位
- ⑦日・韓・中フレンドシップ大会「NF強化事業」⇒ コロナ禍で開催地変更のため中止  
開催期間：令和4年12月の世界選手権大会と兼ねる  
場所：中華人民共和国 重慶市（変更前の場所）
- ⑧アジア選手権大会「NF強化事業」  
開催期間：令和4年12月11日～12月20日  
場所：バーレーン国 マナーマ市  
派遣人数：指導者3名 選手1名  
女子81kg級 中島一馨 2位
- ⑨東アジア選手権大会「NF強化事業」⇒ コロナ禍のため令和5年度へ延期  
開催期間：令和5年2月中  
開催場所：大韓民国

#### (4) 国際大会開催

2022関西マスターズ大会が7月に徳島県で開催予定であったが、コロナ禍の為2027年に延期になったため、日本での開催はなかった。

#### (5) 海外優秀コーチ招聘事業

2024パリ、2028ロサンゼルスオリンピック大会に向けて、海外の優秀コーチ招聘予定であったが、コロナ禍により実施できなかった。

#### (6) スポーツ医・科学研究事業との連携に基づく強化

- ① 日本スポーツ振興センター（JSC）・国立スポーツ科学センター（JISS）・日本オリンピック委員会（JOC）から次のハイパフォーマンス事業を受けた。
  - ア) 栄養、心理、トレーニング、情報、科学の各分野が連携した医・科学支援をうけた。
  - イ) ウエイトリフティングの技術について、国内・外大会でのビデオカメラ撮影を依頼し、動作解析して、選手・指導者へのフィードバックをすると共に、その内容について、全国指導者研修会・会報等を通して周知した。
  - ウ) フィットネスの面では、体力の把握に基づくトレーニングを行った。
- ② ミズノスポーツ振興財団の助成により、新型コロナウイルス感染症時代のウエイトリフティング競技大会のメディカルサポート体制と競技力向上のための調査研究を実施。

2022（令和4）年度、本協会（スポーツ医科学委員会）では、団体レベルの分析としてクラスターの発生がなく、競技大会のメディカルサポート体制が適切に行われた。しかしながら、個人レベル分析として、試合後の感染の発症の追跡調査や新型コロナウイルス感染症時代、予定通りに試合や合宿が行われたわけではなく、練習制限、試合制限によって、競技力の低下、外傷についての調査を計画した。

そこで、新型コロナウイルス感染症時代のウエイトリフティング競技大会のメディカルサポート体制の確立のための調査研究を行い、競技会の医務活動や外傷障害調査に加え、全日本レベルの大会で調査を実施した。
- ③ 主要競技会において医科学委員会の医師等が医事運営にあたり、競技会時の安全管理・危機管理の向上をめざした。

#### (7) ハイパフォーマンスディレクターの推薦

公益財団法人日本オリンピック委員会の事業制度を活用し、中長期的な強化戦略プランを計画・立案・策定する等、競技団体強化責任者として強化活動を統括する、ハイパフォーマンスディレクターを採用した。 担当者 小宮山哲雄氏

#### (8) コーチの推薦

味の素ナショナルトレーニングセンター専用施設の有効活用と選手強化のコーチングの任に当たるために、公益財団法人日本オリンピック委員会のコーチ等設置事業制度を活用した。

ナショナルヘッドコーチ：平良真理氏

ナショナルチームコーチ：三宅宏実氏、細川翔平氏、柴田里穂氏

### 2. コーチの資質向上を目的とする事業

#### (1) 全国指導者研修会

ウエイトリフティング指導者の資質と指導力の向上及び指導者間の情報交換並びに連携を図ることを目的に開催した。

期 日 令和5年2月12日（日）

会 場 味の素ナショナルトレーニングセンター

参加者 指導者4名、受講者50名

内 容 ①令和4年度事業報告（総括）と2024パリオリンピックに向けて  
②JISS研究発表（フォーム解析）  
③コンプライアンス研修（JOC教材）

#### (2) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者専門教科講習会講師の派遣

- ① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者「コーチ1」養成（専門教科）講習会

期 日 令和5年2月21日～2月24日  
会 場 岐阜県可児市「可児ウエイトリフティング場」  
時 間 30時間  
会 場 味の素ナショナルトレーニングセンター  
指導者 5名、 受講者 16名

- (3) 「JWA×NSCAジャパン ウエイトリフティング実技検定」指導者育成事業  
令和4年4月より実施予定であったが、まだ、コロナ禍で開催は出来なかった。

## II. 競技者育成事業

### 1. 研修合宿開催

一貫指導システム（ナショナルトレーニングシステム）の理念と方法に基づき、競技者の発掘及び育成を図ることを目的に次の研修合宿を実施した。

この事業は、（スポーツ振興くじ助成事業）として補助を受けて開催した。

- (1) 大学生研修合宿（ジュニア スペリオリティー）

各種競技会の成績を基に、ジュニア年代の学生をセレクションし、中央にて研修合宿を実施した。

期 間 : 令和4年9月13日～9月16日（3泊4日）

場 所 : 味の素ナショナルトレーニングセンター

参加者 : 指導者4名、選手19名

- (2) 中学生・高1研修合宿（ディベロップメント）

都道府県協会に中学生及び高校1年生の優秀競技者の情報提供を依頼し、選手強化委員会の専門グループがセレクションした選手を対象に研修合宿を実施した。

期 間 : 令和4年9月23日～9月25日（2泊3日）

場 所 : 味の素ナショナルトレーニングセンター

参加者 : 指導者10名、選手19名

- (3) ジュニアエリート研修合宿

各種競技会の成績を基に、優秀な高校2・3年生をセレクションし、中央にて研修合宿を実施した。

期 間 : 令和4年12月23日～12月28日（4泊5日）

場 所 : 味の素ナショナルトレーニングセンター

参加者 : 指導者8名、選手24名

- (4) ジュニアユース研修合宿

都道府県協会よりの優秀競技者の情報及び各種競技会の成績を基に、優秀な中学生及び高校1年生を対象に全国を6地区に区分して研修合宿を実施した。

期 間 : 令和4年12月24日～12月28日（3泊4日）

場 所 : 北海道・東北地区：福島県 福島明成高校

指導者5名、選手10名

関東地区 : 茨城県 石岡第一高校

指導者5名、選手10名

北信越・東海地区：岐阜県 可児市運動公園

指導者5名、選手8名

近畿地区 : 滋賀県 安曇川高校

指導者5名、選手10名

中国・四国地区 : 愛媛県 新居浜市民体育館

指導者5名、選手8名

九州地区 : 宮崎県 ひなた宮崎県総合運動公園

指導者3名、選手9名

### 2. 2028年・2032年対策競技者発掘・育成事業支援

2028年ロサンゼルス・2032年オリンピック対策として、北海道士別市で競技者のタレント発掘・育成事業を開催し、オリンピック講演も行った。

### 3. 公益財団法人日本スポーツ振興センター主催「ジャパンライジングスタープロジェクト」タレント発掘事業の実施

平成29年度より、日本スポーツ協会主催の全国から中学生・高校生の異種目競技からの転向タレント発掘事業が実施されている。令和4年度5期生は日本スポーツ振興センターの委託事業で開催、2028年ロサンゼルス、2032年オリンピックの候補選手となるよう目標をおいた。

第1期生から拠点（協力）県である山梨県山梨市民総合体育館ウエイトリフティング練習場で合宿を開催し、若年層のタレント発掘事業を行った。当年度で最終事業となった。

修了者 12名

男子5名	吉岡 祥輝	茨城県	日立市立十王中学校	1年
	西本 想来	香川県	高松市立紫雲中学校	2年
	菅野 樹	山形県	東根市立第一中学校	3年
	依田 崇良	山梨県	山梨市立南中学校	2年
	塚原 颯星	栃木県	壬生町立南犬飼中学校	2年
女子7名	佐藤 和花	宮城県	仙台市立八木山中学校	2年
	佐々木 瑠那	宮城県	利府町立西中学校	2年
	森 望華	宮城県	角田市立角田中学校	3年
	高橋 心愛	山形県	鶴岡市立鶴岡第一中学校	2年
	井上 咲季	愛媛県	松山市立興居島中学校	1年
	鶴田 利菜子	福岡県	久留米市立北野中学校	3年
	廣長 七緒	大阪府	箕面自由学園中学校	2年

### III. 振興・教育事業

#### (1) スポーツ外交の推進

2023年1月にアジアウエイトリフティング連盟（AWF）の役員改選があり、アジアの役員、委員会委員が決定した。

[アジア連盟改選選挙]

開催日：令和5年1月5日

開催場所：カタール国 ドーハ市

結果：理事 岡田純一（本協会常務理事） ※後に調査研究委員長  
 テクニカル委員 知念令子（本協会国際委員長）  
 医事委員会 米山喜平（本協会理事）

#### (2) 生涯スポーツの振興

令和4年5月に行われる予定の「ワールドマスターズゲームズ2021関西」（開催地徳島県鳴門市）は現状のコロナ禍で令和9年5月に延期された。

○全日本マスターズ選手権大会

大会会期：令和4年9月8日（木）～9月11日（日）

場 所：秋田県山本郡三種町 琴丘総合体育館

#### (3) 情報の収集と情報誌の発刊

① IWF及びAWFの会議及び大会に代表者を派遣し、情報収集と併せてIWF・AWFとの連携を図るため役員を派遣した。

・世界選手権大会（IWF関係会議）

期日：令和4年12月3日～12月13日予定

場所：コロンビア共和国 ボゴタ市

参加者：三宅宏実国際連盟理事

② スポーツ振興くじの助成を受けて、令和3年度年鑑、会報138号、会報139号、会報140号を発刊した。主な内容は次のとおり。

年鑑：令和3年度の協会主催競技会及び主要国際大会の成績

協会組織図、協会役員名簿、都道府県協会役員名簿、令和4年度事業、公認最高記録及び記録樹立表、ランキング表等

会報：令和4年度事業計画、各種事業報告、大会講評、ブロック大会以上の競技会及び主要国際大会の成績、各種研究成果報告

#### (4) 用器具等の検定及び公認

本協会器具公認認定規則に基づき、高品質で絶対の安全性と機能性のあることを確認するなかで申請のあった器具に対して認定を行った。

(5) 顕彰

本協会表彰規程に基づき、功労賞、優秀選手賞、優秀指導者賞の表彰を、また、役員等の感謝状贈呈に関する基準により顕彰を行い、表彰式は3月社員総会終了時に行った。

○功労賞の推薦（14名）

①横山 栄（73歳）	富山県協会	前 会長	第3条2(1)	（平成13年～21年間）
②西本 正俊（64歳）	福井県協会	前 会長	第3条2(1)	（平成23年～11年間）
③渡辺 光弘（60歳）	北海道協会	現 副会長	第3条2(2)	（昭和57年～40年間）
④齋藤 将（72歳）	青森県協会	現 常任理事	第3条2(2)	（昭和58年～39年間）
⑤齋藤 博史（59歳）	秋田県協会	現 副理事長	第3条2(2)	（昭和58年～39年間）
⑥吉川 勇（63歳）	秋田県協会	現 理事長	第3条2(2)	（昭和56年～41年間）
⑦渡辺 正昭（75歳）	福島県協会	現 監事	第3条2(2)	（昭和45年～52年間）
⑧松下 忠光（60歳）	山梨県協会	現 理事	第3条2(2)	（平成5年～29年間）
⑨和田 直（56歳）	長野県協会	現 副理事長	第3条2(2)	（昭和62年～36年間）
⑩西川 莊吾（62歳）	滋賀県協会	現 副会長	第3条2(2)	（昭和58年～39年間）
⑪山田 一則（60歳）	滋賀県協会	現 副会長	第3条2(2)	（昭和63年～34年間）
⑫片井 陽（48歳）	奈良県協会	現 理事	第3条2(2)	（平成13年～21年間）
⑬大正谷 稔（74歳）	徳島県協会	現 理事	第3条2(2)	（昭和40年～57年間）
⑭金田 拓郎（68歳）	福岡県協会	現 理事	第3条2(2)	（平成12年～22年間）

○優秀選手賞（10名）

第3条 第3項 (1) 1名

①男子 73kg級 宮本昌典（東京国際大学・職） 2022世界選手権大会 5位

第3条 第3項 (2) 1名

①女子 81kg級 中島一馨（光仁会 木島病院） 2022アジア選手権大会 2位

第3条 第3項 (3) 該当なし

第3条 第3項 (4) 8名

①男子 55kg級 砂山昂大（鹿児島県スポーツ協会） S 115kg

②男子 102kg級 持田龍之輔（ALSOK） S 175kg T 385kg

〃 109kg級 〃 S 182kg

③男子+109kg級 村上英士朗（いちご株式会社） S 192kg C&J 233kg 235kg T 425kg

④男子+109kg級 知念光亮（いちご株式会社） S 193kg

⑤女子 71kg級 石井未来（いちご株式会社） S 101kg C&J 125kg T 223kg

⑥女子 71kg級 瀬川瑠奈（東京国際大学） C&J 126kg

⑦女子 81kg級 長島和奏（宮津天橋高校） C&J 125kg 130kg

⑧女子 +87kg級 中嶋友菜（東京国際大学） C&J 138kg

○優秀指導者賞（4名）

①川畑 勉：宮津天橋高校指導員・・・長島和奏選手 の指導者

②三宅敏博：東京国際大学（職）・・・宮本昌典選手・瀬川瑠奈、中嶋友菜、の指導者

③浅田久美：SUZU DREAM CLUB・・・中島一馨選手 の指導者

④三宅宏実：いちご株式会社・・・石井未来選手・村上英士朗選手・知念光亮選手 の指導者

○被感謝状贈呈者

スポンサー関係：いちご株式会社、カネカ株式会社、JTB、JAL、ミズノ、ALSOK

多額寄付者（免税募金等）：ウエサカティニー、ミズノスポーツ振興財団

物品提供社：大塚製薬、クリアーウォーター津南

(6) アンチ・ドーピング活動

① 啓発・教育活動

・JADAが作成したドーピング防止ガイドブック（対象者別）を選手、アスリートサポートスタッフに配付（約2,000部）し情報を提供した。また、文書にて各都道府県協会に各種情報を伝達した。

・各種競技会前の監督会議にて最新情報を伝達し、啓発・教育活動を行った。

・アウトリーチを全国高等学校選手権及び国民体育大会等で開催し、協会独自の教材も配布、情報を提供した。

② 講習会・研修会、アウトリーチの開催

スポーツ振興くじの助成及びJADAの助成を受けて、次の事業を実施した。

・世界選手権、アジア競技大会候補選手対象講習会

5月

味の素ナショナルトレーニングセンター

- ・世界ジュニア、ユース代表選手対象講習会  
5月 味の素ナショナルトレーニングセンター
- ・全国高校総合体育大会参加者対象 アウトリーチ  
8月5～8日 愛媛県新居浜市 新居浜市民体育館
- ・ジュニアユース研修合宿参加者講習会  
8月12日 味の素ナショナルトレーニングセンター
- ・大学生研修合宿参加者講習会  
9月14日 味の素ナショナルトレーニングセンター
- ・全日本社会人選手権大会・全日本女子選抜選手権大会参加者講習会  
11月 2日 北海道士別市
- ・ジュニアエリート研修合宿参加者講習会  
12月26日 味の素ナショナルトレーニングセンター
- ・北海道・東北地区ジュニアユース研修合宿参加者講習会（オンライン）  
12月26日 福島県福島明成高校
- ・関東地区ジュニアユース研修合宿参加者講習会（オンライン）  
12月26日 茨城県石岡第一高校
- ・北信越・東海地区ジュニアユース研修合宿参加者講習会（オンライン）  
12月26日 岐阜県可児市運動公園
- ・近畿地区ジュニアユース研修合宿参加者講習会（オンライン）  
12月26日 滋賀県安曇川高校
- ・四国・中国地区ジュニアユース研修合宿参加者講習会（オンライン）  
12月26日 愛媛県新居浜市市民総合体育館
- ・九州地区ジュニアユース研修合宿参加者講習会（オンライン）  
12月26日 宮崎県日向宮崎総合運動公園

③ ドーピング検査

- ・日本スポーツフェアネス推進機構、JADA、WADA(ITA)の下、競技会検査及び競技会外検査を実施する。（全日本選手権大会を含む。尿検査・血液検査を実施した。）
- ・日本スポーツ協会が国民体育大会時に行った検査に協力した。

④ TUE申請大会の指定によるその実践

世界選手権大会等の国際大会出場者には、TUEの申請が不可欠である。国内競技会においては徹底されていない状況であることから、次の3大会を指定し実施した。

全日本選手権大会、国民体育大会、全日本社会人/全日本女子選抜選手権大会

⑤ ADAMSへの居場所情報提出の徹底

- ・JOC認定の強化指定選手及びIWFからの指定選手並びに国際大会参加選手は、居場所情報をITA及びADAMSへ提出させた。
- ・提出の確認・督促、最新情報の提供等をメール等で共有し未提出をなくした。

(7) 審判員の資質向上

① 審判講習会の開催

審判員の資質の向上を目的に次の講習会を開催した。

- ・対象者： 国内1級審判資格、国際審判資格所持者（義務研修）及び令和4年度国内1級審判を受験希望する審判員を対象とした。

- ・講習会： 東日本

期日： 令和4年 9月17日（土）

場所： 東京都新宿区 JSOS3F会議室

講師： 磯村賢一 委員 受講者：13名

西日本

期日： 令和4年 8月28日（日）

場所： 大阪府堺市 シティホテル青雲荘

講師： 島田隆宏 委員 受講者：5名

リモート

期日： 令和4年 9月23日（金・祝）

講師： 岡田純一 委員長 受講者：28名

- ② 国際大会へ審判員等を派遣し、資質の向上を図ると同時に国際基準での競技運営能力の向上に努めた。

- ・ 世界ジュニア選手権大会  
派遣期間 : 令和4年 5月 2日～ 5月10日  
場 所 : ギリシャ共和国 クレタ島 イラクリオン県  
派遣人数 : 1名 知念令子氏
  - ・ 世界ユース選手権大会  
派遣期間 : 令和4年 6月11日～ 6月18日  
場 所 : メキシコ合衆国 レオン市  
派遣人数 : 2名 知念令子氏、佐古 浩氏
  - ・ アジアジュニアユース選手権大会  
派遣期間 : 令和4年 7月15日～ 7月25日  
場 所 : ウズベキスタン共和国 タシケント市  
派遣人数 : 3名 知念令子氏、佐藤ひろみ氏、ドクター 中嶋耕平氏
  - ・ アジア選手権大会  
派遣期間 : 令和4年10月6日～10月15日  
場 所 : バーレーン王国 マナーマ市  
派遣人数 : 1名 長谷章一氏
  - ・ 世界選手権大会  
派遣期間 : 令和4年12月3日～12月13日  
場 所 : コロンビア共和国 ボゴタ市  
派遣人数 : 2名 知念令子氏 佐藤ひろみ氏
- (8) 審判員の審査と認定  
申請に基づき公認審判員の審査を行い、適確に認定を行った。
- (9) 競技規則集の更新版の作成と販売  
国際連盟の公表が遅れ、当年度には間に合わなかった。
- (10) インテグリティ教育（ハラスメント行為撲滅活動及び選手・指導者の資質向上）の充実
- ・ 指導者及び選手に対して、人として反社会的行為、倫理観等についての教育を行った。
  - ・ 暴力、パワハラ、セクハラ等の相談窓口の周知をした。  
些細なことでも相談できるシステムとして、本協会のホームページ（トップページ）に「STOP ハラスメント・暴力」相談窓口を開設している。
  - ・ 暴力、パワハラ、セクハラ、倫理等に係わる研修の実施  
次の研修会・委員会・総会・会議等を通じて研鑽を深めた。  
全国指導者研修会  
全国高等学校体育連盟ウエイトリフティング専門部全国委員会  
全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技会監督会議  
全日本学生ウエイトリフティング連盟監督会議  
全国理事長会
  - ・ 指導者・選手に十分注意喚起し、軽率な行動を取らない、巻き込まれない、常に競技を考えた行動遵守を身に付けさせた。
  - ・ 日本オリンピック委員会事業のインテグリティ教育を選手及び指導者も受講し、より質の高い選手育成及び指導者養成を図った。
- (11) ホームページの充実整備  
法人として公開しなければならない情報はもとより、役員・選手のニーズに合わせた内容及び一般のユーザーにわかるように表示した。
- (12) 記録の公認  
競技・競技会規則Ⅷに基づき、日本記録を認定し公表した。

〔新記録の合計〕

期 間 : 2022. 01. 01～2022. 12. 31

男子	日本	Jr 日本	大学	高校	中学	マスターズ	合計
	9	7	2	1	47	25	68
女子	日本	Jr 日本	大学	高校	中学	マスターズ	合計
	5	29	22	24	0	31	111

#### IV. 大会開催事業

##### 1. 国内大会開催事業



競技力の向上、競技の普及・振興、生涯スポーツの振興発展ため、次の大会を開催した。

- ① 大会名：第82回全日本選手権大会・第36回全日本女子選手権大会  
期 日：令和4年4月28日～5月1日  
会 場：愛媛県 新居浜市総合体育館  
【新記録】 男子 日本新 6 Jr日本新 2 大会新 19  
            女子 日本新 3 Jr日本新 8 大学新 7 高校新 3 大会新 19
- ② 大会名：第68回全日本学生個人選手権大会・第33回全日本女子学生選手権大会  
期 日：令和4年5月13日～5月15日  
会 場：大阪府羽曳野市 羽曳野コロセアム  
【新記録】 男子 大会新 2 女子 大会新 7  
最優秀選手： 男子 96kg級 不破翔太（日本大学3年）  
            女子 55kg級 原 沙織（早稲田大学4年）
- ③ 大会名：令和4年度第1回全国高校女子大会金沢大会  
期 日：令和4年7月23日～7月24日  
会 場：石川県 医王山スポーツセンター
- ④ 大会名：第69回全国高等学校選手権大会・第24回全国高校女子選手権大会  
期 日：令和4年8月5日～8月8日  
会 場：愛媛県 新居浜市体育館  
参加者：男子301名、女子97名  
団体成績：  
〔男子〕  
1位 日大藤沢高校 107点 2位 八幡中央高校 46点 3位 滑川高校 40点  
4位 田村高校 37点 5位 白根高校 34点 6位 日川高校 32点  
7位 堅田高校 31点 8位 水島工業高校 31点  
【新記録】 大会新 15  
〔女子〕  
1位 香川中央高校 43点 2位 宮津天橋高校 40点 3位 須磨友が丘高校 38点  
4位 新居浜東高校 34点 5位 日川高校 22点 6位 栃木翔南高校 21点  
6位 本部高校 21点 6位 明石清水高校 21点 6位 海洋高校 21点  
【新記録】 Jr日本新 1 高校新 7 大会新 13
- ⑤ 大会名：第36回全国男子中学生選手権大会・第21回全国女子中学生選手権大会  
期 日：令和4年7月17日・18日  
会 場：茨城県高萩市 高萩市文化会館  
参加者：男子66名、28名  
【新記録】 男子 中学新 23 大会新 26 女子 大会新 2  
最優秀選手 男子 89kg級 辰巳航大（岐阜県 輪之内中学校3年）  
            女子 49kg級 佐藤和花（宮城県 八木山中学校3年）
- ⑥ 大会名：第40回全日本マスターズ選手権大会  
期 日：令和4年9月8日～9月11日  
会 場：秋田県 三種町総合体育館  
参加者：男子139名、女子21名  
【新記録】 男子 日本新 24 女子 日本新 26
- ⑦ 大会名：第77回国民体育大会  
期 日：令和4年10月6日～10月10日  
会 場：栃木県小山市 小山県立体育館  
団体成績 天皇杯  
1位 沖縄県 112点 2位 山梨県 103点 3位 三重県 97点  
4位 福島県 96点 5位 東京都 81点 6位 埼玉県 71点  
7位 栃木県 69点 8位 京都府 67点  
団体成績 皇后杯  
1位 沖縄県 44点 2位 千葉県 41点 3位 群馬県 38点  
4位 京都府 32点 5位 三重県 31点 6位 栃木県 26点  
7位 北海道 25点 7位 東京都 25点  
【新記録】 男子 日本新 3 Jr日本新 2 大学新 1

女子Jr日本新 8 大学新 8 大会新 7

- ⑧ 大会名：文部科学大臣杯第68回全日本大学対抗選手権大会 2部  
期 日：令和4年11月4日～11月6日  
会 場：大阪府羽曳野市 はびきのコロセアム  
参加者：135名

団体成績

1位 平成国際大学 132点 2位 名古屋産業大学 116点 3位 仙台大学 110点  
4位 大阪商業大学 97点 5位 近畿大学 87点 6位 慶応義塾大学 85点  
7位 天理大学 74点 8位 桃山学院大学 63点

※1, 2位校は次年度1部へ

- ⑨-1大会名：レディースカップ第14回全日本女子選抜選手権大会

期 日：令和4年11月2日・3日

会 場：北海道士別市総合体育館

参加者：女子 一般86名、高校生67名

団体成績 高校の部

1位 香川中央高校 39点 2位 宮津天橋高校 21点 3位 新居浜南高校 18点  
4位 新居浜東高校 16点 5位 鳥羽高校 14点 6位 小林高校 13点

一般の部

1位 早稲田大学 33点 2位 日本体育大学A 29点 3位 関西大学 28点  
4位 警視庁 28点 5位 九州国際大学 27点 6位 東京国際大学 27点

【新記録】女子 Jr日本新 3 高校新 4 大会新 48

最優秀選手 高校の部 81kg級 長島和奏 (京都府 宮津天橋高校)

一般の部 49kg級 安嶋千晶 (佐賀県 チームむつごろう)

- ⑨-2大会名：内閣総理大臣杯第59回全日本社会人選手権大会

期 日：令和4年11月4日～6日

会 場：北海道士別市総合体育館

参加者：男子116名

団体成績

1位 警視庁 106点 2位 自衛隊体育学校 90点 3位 Rock Eagles 50点  
4位 トヨタ自動車 41点 5位 チームむつごろう 40点 6位 チームめじろん 38点  
7位 大阪府警 38点 8位 かいじクラブ 37点

[各部門成績]

○地域スポーツクラブチーム

1位 Rock Eagles 50点 2位 チームむつごろう 40点 3位 チームめじろん 38点

○官公庁等チーム

1位 警視庁 106点 2位 自衛隊体育学校 90点 3位 大阪府警 38点

○企業チーム

1位 トヨタ自動車 41点 2位 新旭電子工業(株) 27点 3位 ALSOK 16点  
3位 PLANT 16点

【新記録】 大会新 49

最優秀選手 文部科学大臣表彰 73kg級 笠井武広 (東京都 ALSOK)

- ⑩ 大会名：文部科学大臣杯第68回全日本大学対抗選手権大会 1部

期 日：令和4年11月29日～12月1日

会 場：埼玉県さいたま市 サイデン化学アリーナ

参加者：男子98名

【新記録】 Jr日本新 2 大学新 3 大会新 13

団体成績

1位 法政大学 167点 2位 金沢学院大学 148点 3位 日本大学 145点  
4位 早稲田大学 141点 5位 九州国際大学 117点 6位 東京国際大学 97点  
7位 明治大学 83点 8位 中央大学 80点 9位 日本体育大学 63点  
10位 京都産業大学 30点 ※9、10位校は次年度2部校へ

- ⑪ 大会名：文部科学大臣杯第68回全日本大学対抗選手権大会 女子

期 日：令和4年12月17日・18日

会 場：大阪府羽曳野市 はびきのコロセアム

参加者：76名

【新記録】 Jr日本新 1 大学新 2 大会新 13

団体成績

1位 早稲田大学 115点 2位 東京国際大学 111点 3位 金沢学院大学 103点  
4位 日本体育大学 86点 5位 平成国際大学 42点 6位 関西大学 38点  
7位 九州国際大学 35点 8位 立命館大学 29点

⑫ 大会名：JOCジュニアオリンピックカップ第43回全日本ジュニア選手権大会

期日：令和5年3月3日～3月5日

会場：三重県四日市市総合体育館

【新記録】 男子 Jr日本新 1 高校新 5 中学新 12 大会新 48

女子 Jr日本新 2 高校新 8 大会新 31

最優秀選手 男子 81kg級 東 楽映 (京都府 海洋高校2年)

女子 55kg級 川崎菜々紗 (京都府 海洋高校2年)

⑬ 大会名：第67回全日本学生新人選手権大会

期日：令和5年3月9日・10日

会場：埼玉県上尾市 スポーツ総合センター

【新記録】 男子 大会新 9

女子 大会新 3

優秀選手 男子 73kg級 丹 翔琉 (日本大学1年)

女子 55kg級 高瀬 花 (日本体育大学1年)

⑭ 大会名：第19回全日本学生選抜大会

期日：令和5年3月11日・12日

会場：埼玉県上尾市 スポーツ総合センター

【新記録】 男子 大会新 7

女子 大学新 1 大会新 12

最優秀選手 女子 +87kg級 中嶋友菜 (東京国際大学3年)

優秀選手 男子 73kg級 佐藤康太郎 (早稲田大学4年)

⑮ 大会名：第38回全国高等学校選抜大会

期日：令和5年3月26日～3月28日

会場：石川県金沢市 金沢市総合体育館

【新記録】 男子 高校新 5 大会新 25

女子 Jr日本新1 高校新 4 大会新 23

最優秀選手 男子 81kg級 東 楽映 (京都府 海洋高校2年)

女子 55kg級 川崎菜々紗 (京都府 海洋高校2年)

## V. 会務

本会の目的達成及び業務を達成するため、次の会議を開催した。

### (1) 社員総会の開催

① 令和4年度 定時社員総会

期日 令和4年6月26日(日)

場所 東京都 味の素ナショナルトレーニングセンター

議題 審議事項

①令和3年度事業報告及び決算報告

②令和4年度第1次補正予算

② 令和4年度 臨時社員総会

期日 令和5年3月18日(土)

場所 東京都 品川プリンスホテル

議題 審議事項

①令和4年度第2次補正予算案

②令和5年度事業計画及び予算案

### (2) 理事会の開催

① 第1回理事会

期日 令和4年6月11日(土)

場所 東京都 味の素ナショナルトレーニングセンター

議 題 「報告事項」

1. 各種大会報告  
①全国高校選抜大会 ②全日本選手権大会 ③全日本学生個人選手権大会
2. 今後の事業開催について
3. 令和4年度第77回栃木国体予選会免除者について
4. 令和4年度5期生ジャパンライジングスタープロジェクト開催について
5. IWF・AWF関係
6. JSCトップアスリート及びユースアスリート個人助成事業について
7. 各委員会より  
①選手強化委員会 ②アンチ・ドーピング委員会 ③普及委員会
8. 全国高体連より
9. 全日本学生連盟より
10. 業務執行理事よりの報告
11. 事務局より
12. その他

「審議事項」

1. 令和3年度事業報告・決算報告について
2. 令和4年度1次補正予算について
3. 「スポーツ団体ガバナンスコード」における中長期計画の承認について
4. 国際審判員のIWFへの推薦について
5. 国内審判員の認定について
6. 全国大会の審判編成について
7. 令和4年度正会員の承認について
8. 委員会委員の追加について

② 第2回理事会

期 日 令和4年9月10日(土) 14:00～

場 所 東京都 味の素ナショナルトレーニングセンター

議 題 「報告事項」

1. IWF役員改選結果について
2. 各種大会終了報告及び事業について
3. 今後の事業について
4. 第77回栃木国体関係等について
5. IWF・AWF関係について
6. 2026アジア競技大会開催について
7. 令和5年度ジャパンライジングスタープロジェクト(JRSP)開催について
8. 選手強化委員会より
9. 各委員会より
10. その他

「審議事項」

1. アジア連盟役員・委員会委員改選立候補者について
2. 国内2級審判員の推薦について
3. 賛助会員の入会承認について

③ 第3回理事会

期 日 令和4年12月10日(土) 14:00～

場 所 東京都 味の素ナショナルトレーニングセンター

議 題 「報告事項」

1. 叙勲の受章報告
2. 各種大会・事業終了  
① 第40回全日本マスターズ選手権大会  
② 第77回国民体育大会(栃木)  
③ 第14回全日本女子選抜選手権大会  
④ 第59回全日本社会人選手権大会  
⑤ 第69回全日本大学対抗選手権大会2部・1部

- ⑥ 2022アジア選手権大会
- 3. IWF・AWF関係国際情報について
- 4. 日本スポーツ協会関係
- 5. 日本オリンピック委員会関係
- 6. 各委員会より
  - ①選手強化委員会      ②アンチ・ドーピング委員会      ③競技委員会
  - ④マスターズ委員会      ⑤指導者育成委員会
- 7. 事務局より
- 8. その他
  - [審議事項]
  - 1. 令和5.6年度の役員選任手順と内容について
    - ①6月選任までの日程    ②規程、規則等の改定    ③役員選考委員会委員任命
  - 2. 令和4年度日本協会表彰について
  - 3. 国内審判員の認定及び国際審判員の国際連盟への推薦について
  - 4. 全国大会の審判編成について
  - 5. 令和5年度年間計画について
    - (終了後)役員・職員研修会
    - 講師：加毛 修 弁護士（協会顧問弁護士：銀座総合法律事務所）
    - 研修題目：「競技団体におけるコンプライアンス遵守に関する内容」

④ 第4回理事会

期 日 令和5年3月18日（土）14：00～

場 所 東京都 品川プリンスホテル

議 題 [報告事項]

- 1. 各種大会・事業終了
  - ①2022世界選手権大会
  - ②第68回全日本大学対抗選手権大会 女子
  - ③第43回全日本ジュニア選手権大会
  - ④第67回全日本学生新人選手権大会
  - ⑤第19回全日本学生選抜選手権大会
- 2. 功労賞・優秀選手賞・優秀指導者賞について
- 3. 令和4年度感謝状贈呈について
- 4. IWF・AWF関連報告
  - (1)IWF12月理事会報告
  - (2)AWF役員改選選挙等について
- 5. 各委員会より
  - (1)選手強化委員会より
  - (2)競技委員会より
  - (3)マスターズ委員会より
- 6. JSC「ジャパンライジングスタープロジェクト」事業終了について
- 7. 代表理事及び業務執行理事よりの報告
- 8. 新型コロナウイルス感染症対策本部より
- 9. その他
  - [審議事項]
  - 1. 令和4年度臨時社員総会提案事項について
    - (1)令和4年度第2次補正予算案
    - (2)令和5年度事業計画案及び予算案
  - 2. 国際審判員推薦、国内審判員の認定、全国大会の審判編成について
  - 3. 令和5年度ブロック別審判講習会について
  - 4. 2022競技規則・規程集の改定について
  - 5. 日本オリンピック委員会役員改選における推薦について
  - 6. 日本スポーツ協会役員改選における推薦について
  - 7. 役員改選における役員候補者選考委員会委員の選任について
  - 8. 事務局職員人事について

## 9. コンプライアンス違反事案について

### VI. 財政の確立

各種事業の推進に、独立行政法人日本スポーツ振興センター、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本スポーツ協会、外務省、スポーツ庁、公益財団法人ミズノスポーツ振興財団等に対し、助成金・委託金・補助金等の要望・申請を行い、本会の事業実施への充当財源に努めた。

財政基盤確立のため、定款に基づく賛助会員の募集に努め、継続してスポンサー獲得も維持した。

### VII. 2024パリオリンピックに向けての計画及び2028年・2032年に向けて

#### (1) 選手強化計画

##### ① 2024パリオリンピック対策強化戦略プランに基づく強化の推進

- ・令和4年11月世界選手権大会結果（2024パリオリンピック参加資格大会）  
2024パリオリンピック出場資格獲得トップ10に男子2階級（2名）が入った。

##### ② 5年後の2028年ロサンゼルスオリンピックに向けて

- ・中学生、高校生、大学生の育成強化「次世代アスリート育成」事業を実施した。

##### ③ P D C Aサイクルの確認に基づく強化の推進

- ・選手強化委員会において、強化事業のP D C Aを行った。

##### ④ 指導者の育成

- ・ナショナルコーチアカデミーに参加した。

#### (2) 競技の普及振興対策

##### ① 5000人対策プロジェクト推進

- ・登録選手数（現在：役員約1000人、選手約3500人）を500人増やし5000人を目標としたが、今後も継続して行う。
- ・メディア（新聞社及びテレビ局）に大会の開催案内を行った。
- ・タレント発掘事業を実施した。

##### ② 競技会開催による普及対策

- ・小学生の大会を非公式であるが全日本中学生大会前日に開催した。
- ・中学生大会の開催を実施した。

#### (3) 国際発信力、国際大会運営能力の向上

##### ① I W F ・ A W F 役員等ポスト獲得事業の推進

- ・国際ウエイトリフティング連盟及びアジアウエイトリフティング連盟主催の大会、会議に参加しロビー活動を行った。

##### ② 世界・アジアの各選手権大会及び国際総合大会へのテクニカルオフィシャルを派遣し、国際大会運営能力の向上を行った。

#### (4) 組織運営（ガバナンス、コンプライアンス、インテグリティ教育の向上）

##### ① 事務局職員の分業化を実施。

##### ② 「スポーツ競技団体ガバナンスコード」に基づく中長期計画を継続した。

##### ③ 各委員会の充実のため業務執行理事の指導を仰いだ。

##### ④ 職員がガバナンス研修会に参加した。

#### (5) 国際大会の開催準備

- ・令和8（2026）年日本開催の「第20回アジア競技大会（名古屋）」の開催における、名古屋実行委員会と会議を実施、今後も継続的に計画する。

会期：令和8年9月開催

場所：愛知県名古屋市 中小企業振興会館「吹上ホール」

以上